

桐間地区周辺津波避難訓練実施状況、評価・改善事項等（事業所）

【実施状況】

- ・ 桐間地区事業所 19社（9社 40名）

【評価】主な意見等

- ・ これを機会に職員全員を対象に避難訓練を行っていく。
- ・ 避難場所をエムセテックと多ノ郷小学校方面としているが、災害時の状況に応じて複数方面を準備しておくべきと気づいた。実際に足を運ぶことで日頃からの危機管理を再認識した。
- ・ 目的の避難場所までの時間を知ることができた。別の場所への時間も確認したい。
- ・ 避難経路となる線路地下道は液状化により通行不可能になるのではないかと。駅歩道橋をより大型化、強靱化を図ることで不安も解消されると考えるので検討してほしい。実際の避難者数に近い状況での訓練であり、避難経路の混雑状況等も確認できてよかった。
- ・ 事前に打ち合わせができていなかったため、生徒、保護者らが店内に入らず、外で止まった。事前の準備を1週間前にはしておく。
- ・ 店が指定された避難場所ではなかったが、最短で15分ほどかかるので、状況に応じて避難場所を変えることも考慮しておく必要があることが分かり良かったと感じている。
- ・ 避難ルートと所要時間の確認ができた。
- ・ 学校、JRなどの参加によりスタッフを参加させやすかった。スタッフの意識向上につながった。城山トンネル入口広場に海拔表示が無く安心感ない。
- ・ 小中学校と連携して訓練できたことが良かった。

【改善事項等】主な意見等

- ・ 第2、第3の避難ルートの確保と訓練、非常用物資の持出、定期的な訓練の実施
- ・ 津波避難に対する意識を根付かせるため可能な限り参加したい。単独での避難訓練を定期的実施し、営業時間外の訓練には多数参加できる。
- ・ 6月、7月、10月ごろに訓練を実施してほしい。
- ・ 高い場所へ移動できるように整備してほしい。（城山トンネル）
- ・ 新入学や人事異動等を考慮し、実施時期を4月にした方が、効果が高いと考える。
- ・ 参加できなかった人向けに避難経路を実際に通っている目線で見た動画など、地図以外のツールがあれば。
- ・ 実際に地震が起こった時を想定し、真剣に訓練をする。
- ・ 避難経路が遮断された場合を想定して事業所ごとに2箇所ほどの避難場所を確保し、訓練しても良いのではないかと感じた。
- ・ エムセ方面と市役所方面とでは規模や内容が異なっていたのではないかと。開会式の場所がわからなかった。閉会式の場所が騒音で担当者の声が聞き取りにくかった。救命講習等も同時にできればいいのではないかと。
- ・ 顧客をどのように参加させるかが課題。エリアメールも活用し、シェイクアウトを行い揺れへの意識を高めたい。桐間地区というより市全体の規模で訓練が必要と考える。また、最初の揺れへの取り組みが無いことには避難すらできないという意識を役員などにも伝えたいが、説得力に欠ける部分があるので、市の方から言って頂ければと思う。
- ・ 起震車での体感など実施できればより現実的な訓練になると考える。

桐間地区周辺津波避難訓練実施状況、評価・改善事項等（参加機関）

【実施状況】

- ・須崎市立多ノ郷小学校生徒・教員（４００名）
- ・須崎市立朝ヶ丘中学校生徒・教員（２３８名）
- ・日ノ出保育園児童・職員・保護者（１４０名）

【評価】主な意見等

- ・サイレン音が聞こえにくかった。
- ・保護者同伴の避難訓練と引き渡しカード訓練が実施できたことが良かった。
- ・参加者の防災意識の高揚につながった。
- ・避難経路が完成して良かった。
- ・防災学習を行っている中での避難訓練だったのでインパクトはあった。
- ・ＪＲでの避難訓練は継続的に実施してほしい。
- ・学校、保育園、地域が参加することに意義がある。
- ・今回の避難訓練を教職員も肯定的に捉えている。
- ・エム・セテックへの避難経路が確認できた。
- ・避難標識を知ることができた。
- ・実践に近い緊張感が持てた。
- ・避難場所までの距離や時間的な感覚が持てた。
- ・低学年には移動距離が長かったが集団で頑張れた。
- ・避難開始合図がわかりにくかった。防災無線放送が聞き取りにくかった。
- ・障がいのある児童の避難は想定以上に難しく感じた。
- ・開会式について、低学年は移動が大変だった。
- ・警察等の協力で、移動の安全が確保できた。
- ・大規模訓練は、様々難しさもあると思うが、繰り返し行うことでより良い避難方法も見つかる。
- ・報道機関等により広報されたことで、防災意識の高揚につながった。
- ・子どもたちの命を守る活動に、学校も市や関係機関と協働して取り組みを進めます。

【改善事項等】主な意見等

- ・開会式から避難開始場所までの移動は、開会式の並び方を工夫したらスムーズに移動できると考える。
- ・階段での転倒、将棋倒し等の事故防止を考慮し、中央部にロープを張るなどの工夫が必要ではないか。
- ・避難待機場所に関係職員等は配置し、説明や一斉指示がほしかった。
- ・来年以降、実施する際、雨天の場合の対応等を検討する必要がある。
- ・実際に起こった場合、避難場所では、さらに混雑が予想されるので、地域別のスペース等の目安があれば良いのではないか。
- ・小さな子どもたちを一斉に集めるための工夫やスペース等の課題が残った。

桐間地区周辺津波避難訓練実施状況、評価・改善事項等（避難誘導機関）

【実施状況】

- ・須崎警察署（15名）
- ・須崎消防署（11名）
- ・須崎消防団（11名）

【評価】主な意見等

- ・児童、生徒など多数の参加により、より実践的な訓練ができたとともに、避難誘導等の安全管理もでき、他の交通に対しても危険な状況が見受けられなかった。
- ・合同で行うことにより、お互いの行動や避難に要する時間が一定、把握できた。
- ・計画どおりスムーズに行えたと思うが、日曜などに人出が多い量販店では、店外にスムーズに出られるかどうか心配される。
- ・今回の避難訓練では対象が小中学生であったことから避難階段等もスムーズに登れたが、本番では高齢者や身体の不自由な住民も一緒に避難することになるので、避難階段等をスムーズに登れるか心配される。
- ・マルナカからエムセツテクまで最後尾の避難時間が12分程度であった。

【改善事項等】主な意見等

- ・桐間地区は大型店が集中しており、発災時の車両避難における次のことを検討した訓練の実施。（従業員等への指導・啓発、避難経路・誘導方法、渋滞緩和方法、車両避難と徒歩による避難の優先）
- ・高齢者施設が所在することから高齢者や付近住民等の避難対策を含めた訓練の実施
- ・すべての避難ルート、手段を使ってみる。出来るだけ実際に近づけるため、来客者や車両等を考慮していく。